

# 菟田野小だより「桜梅桃李」

No.25

令和5年 2月1日(水)

(<http://www.utano-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

## 新春お楽しみ会

1月27日(金)大雪の降る中、恒例の新春お楽しみ会が開かれました。記憶が確かなら、学校創立以来続いている学校行事です。

“高学年が低学年を楽しませる”という目標で、4・5・6年生がそれぞれ4つ、計12のアミューズメントコーナーをつくり、低学年がそこをまわってゲーム等を楽しむというものです。コーナーのスタンプラリー用紙を手に、軽快なBGMのもと、子どもたちはまるでUSJパーク内を歩いているような輝いた目をして楽しんでいました。



6年 ボーリング



4年 魚つり



5年 まとあて



6年 もぐらたたき



4年 ふくわらい



5年 はてなボックス



4年 射的



6年 ボールキャッチ

教科学習に支障のない範囲で準備・実施する計画を立てて行いましたが、じゅうぶんに目

標を達成することのできた新春お楽しみ会になりました。



<2年 雪遊び>

## 折にふれ思うこと (今いる場所で)

雪が降ります。

今年は10年に一度の大寒波が日本にやってきて、菟田野でも1月末に大きな雪が積まりました。子どもたちや給食センターの配送車を通すために、希望の坂の雪かきや融雪剤をまいているときに、童謡詩人・金子みすゞさんの作品「雪に」が頭に浮かびました。

「海にふる雪は、海になる。  
街にふる雪は、泥になる。  
山にふる雪は、雪でいる。  
空にまだいる雪、 どオれがお好き。」

(『金子みすゞ童謡全集』JULA出版局)

確かに、雪はどこに降るかを選べません。

「私たち人間も雪と同じです」と言うのは、金子みすゞ記念館の矢崎節夫館長。「生まれる場所も時も、自分では選べないのです。選べないということは、その場所こそが自分の場所だということでしょう。あとは、嬉しいことを見つけやすい自分でいるかどうかです」  
(館長コラムから)

自分の境遇を嘆き周りのせいにするよりも、今いる環境で自分の力をどう発揮していくのか、今いる場所でどう幸福になっていくのかを考えた方が、価値的ではないでしょうか。

春が待ち遠しい日々、共々に健康第一で前進したいと思います。